



豊中市教育センター
〒560-0033 豊中市蛸池中町 3-2-1-600
TEL 06-6844-5290
FAX 06-6840-8127
平成19年(2007年)7月18日第26号

2015年のある小学校の1日

3、4 時間目は、社会の時間。自分たちが住んでいる県について学習した後に、県の産業をグループに分かれて調べている。次の時間に調べたことを発表するので、プレゼンテーション資料を仕上げなければならない。ユウタクんたちのグループは、県の農産品について調べ、日本のどこに送られ、消費されているのかを表す資料を大型ディスプレイに提示して検討している。ヤスコさんたちのグループは、社会見学で行った工場についてどうしてもわから



ないことがあったので、テレビ会議を使って工場長のおじさんに質問した。タカシ君たちは、相談しながらデジタル教科書の動画や静止画を使ってプレゼンテーション資料を作成している。アキコさんたちのグループは、漁業について調べ、映像データベースの資料を取り込んで、編集しているようである。

—文部科学省委託事業「地域・学校の特色を生かしたICT環境活用先進事例に関する調査研究」社団法人日本教育工学振興会(JAPET)より引用—

上記の文章は、教室のICT環境の将来像(5年後、10年後)を検討された、「地域・学校の特色を生かしたICT環境活用先進事例に関する調査研究」の一部です。この例の他にも電子ドリルで答えを画面にペンで書き込むと、コンピュータが答え合わせをしてくれる、大型ハイビジョンモニタを使った学習活動を展開するなど、2015年には、学校・家庭のさまざまな場面で情報機器が活用されている例が紹介されています。

15年ほど前に、当時では最新の約40万円したパソコンを教室に持ち込み、今とは比べ物にならないほどの性能の低さの中で苦勞しながら授業をしたことを思い出しました。インターネットも普及しておらず、ビデオをパソコンで制御するのが精一杯でした。プロジェクターも高価で、学校には1台もなく、モニタの画面をビデオカメラでテレビに映して授業をしていました。

当時も、「なぜ、授業にパソコンが必要なのか」「機器が無くて良いのではないか」ということが問われました。最新の技術は授業の可能性を広げてくれます。子どもたちの学習を深め、一人ひとりがわかる授業を展開するために、その可能性を追求していました。今でも、先進の機器が利用できるからそれで授業をするのではなく、教科のねらいを達成するために、「どの場面で」「どの機器を」「どのように」活用することが一番効果的なのか、常に問いながら授業を進めていく必要があると思います。

これからますます情報化が進む中、教育センターでは、各学校が情報発信や情報活用しながら、授業活用していただけるよう、校内LANをはじめ、これからも学校の情報教育を応援していきたいと考えています。

(島野)

夏季休業中の研修案内

多くの皆さんの参加をお待ちしています。

参加される研修について、要項等で日時・会場をご確認ください。

月日(曜)	午前		午後	
	研修名	担当	研修名	担当
7/23(月)	理科教育研修(地学) 人権教育研修③ 初任者研修(社会体験②)	教育センター 人権教育企画課 教育センター	理科教育研修(地学) 教育相談研修② 初任者研修(社会体験②)	教育センター 教育センター 教育センター
7/24(火)	情報基礎研修②	教育センター	情報基礎研修② 障害児教育連続研修②	教育センター 教育センター
7/26(木)	情報基礎研修②	教育センター	情報基礎研修② 生徒(生活)指導研修①	教育センター 青少年補導センター
7/27(金)	情報基礎研修③	教育センター	情報基礎研修③ 障害児教育連続研修③	教育センター 教育センター
7/30(月)	初任者研修(自然体験) 研修345-夏季(自然体験) 人権教育研修①-3・④	教育センター 教育センター 人権教育企画課	人権教育研修①-3・④	人権教育企画課
8/3(金)	情報基礎研修③ 技術・家庭科教育研修(家庭)	教育センター 教育センター	情報基礎研修③	教育センター
8/6(月)	技術・家庭科教育研修(技術)	教育センター	技術・家庭科教育研修(技術) 特別支援コーディネーター研修	教育センター 教育センター
8/7(火)	ネットワーク担当者研修	教育センター	ネットワーク担当者研修 ニューステージ研修Ⅲ	教育センター 教育センター
8/17(金)	初任者研修(人権研修) 定数内講師(1年未満)研修 (人権研修)	教育センター 教育センター		
8/20(月)	学校事務職員研修会	教職員課		
8/22(水)	夏期教職員研修会 初任者研修(子ども理解)	教育センター	不登校対応研修②	少年文化館
8/23(木)	情報活用研修① 体育実技研修会 初任者研修(小学校授業づくり)	教育センター 学校保健給食課 教育センター	情報活用研修①	教育センター
8/24(金)	情報活用研修① 情報活用研修②	教育センター 教育センター	情報活用研修① 情報活用研修②	教育センター 教育センター
8/28(火)	情報活用研修② 障害児教育研修	教育センター 教育センター	情報活用研修②	教育センター
8/29(水)	ニューステージ研修Ⅰ 環境教育研修会 理科技術職員等研修	教育センター 教育センター 教育センター	ニューステージ研修Ⅰ	教育センター
8/30(木)	ネットワーク担当者研修	教育センター	ネットワーク担当者研修	教育センター

◎夏期教職員研修会を開催します

本年度は、8月末に大阪大学総長に就任される鷺田清一先生をお迎えします。鷺田先生は主に臨床哲学の基礎づけに関する研究、所有論、他者論等についての研究を進められています。

今回は、「聴くことの意味」と題して、子ども理解等幅広い視点から「聴くこと」についてご講演いただきます。

「ひとはなぜ服を着るのか—文化装置としてのファッション」(NHK 人間大学日本放送出版協会)、『『聴く』ことのか—臨床哲学試論』(TBSブリタニカ)などの著書があります。是非ご参加ください。

と き 8月22日(水) 午前10時

会 場 アクア文化ホール

テ マ 「聴くことの意味」

大阪大学副学長
講 師 鷺田清一先生

◎授業(保育)実践論文募集中

授業(保育)実践論文を募集しています。先生方の授業(保育)での取り組みをまとめてみませんか。日々の実践を整理していく中で、児童・生徒のもつ学習課題など見えてくるものもたくさんあります。また、若い先生方へ先輩の取り組みを伝えていただければと考えています。

論文をまとめるということ、何かたいそうなことのように聞こえますが、自分の目の前にいる児童・生徒に何をどう教えたいのか、授業の目的を明確にすることや実際に授業を実施し、結果を検証して次の取り組みに生かしていくことなどの一連の過程と先生方の思いをまとめていただければと思います。7月26日(木)に、授業(保育)実践論文の様式を説明する会を実施いたします。この時に、授業(保育)実践論文をまとめる上で参考となるような事例もご紹介できればと考えています。児童・生徒とともに実践した日々の授業を一度まとめてみたいとお考えの先生方はぜひご応募ください。

論文の締め切りは10月1日(月)を予定しています。授業(保育)実践論文を書いてみようとお考えの先生は豊中市教育センター研究・研修係までご一報ください。

Webメールが変更になりました(Q&A)

7月1日(日)以降、メールシステムが「アスキーメール」から「グレースメール」に更新しています。Mail.toyonaka-osa.ed.jp/にアクセスすると右下のような画面が表示されます。

Q. なぜ、メールシステムが変更されたのですか。

A. 保守が切れるサーバの更新に伴って、より使いやすいグレースメールに更新したものです。

Q. グレースメールにしたらどんな点が使いやすくなりますか？

A. パスワードの変更ができるようになりました。添付ファイルの容量が10メガバイトに増量されました。

Q. これまでのデータは、消えてしまうのですか？

A. 8月31日まではアスキーメールにログインすれば読み取りができます。アスキーメールボックス内の重要なメールについては、各自保存をお願いします。

Q. アドレスは変更になりますか？

A. 今までと同じです。

Q. グレースメールにログインできません。

A. 学校等の異動でユーザー登録の更新がされていない可能性があります。アスキーメールにログインしてmakeuser@toyonaka-osa.ed.jp宛にご連絡ください。ユーザー登録が済み次第、アスキーメールにご連絡を差し上げます。

Q. アドレス帳は移せますか？

A. 移行することはできます。トップページからマニュアルをご覧ください。

発音の話

教育相談の中で、ことばに関わる相談の申し込みが集中する時期があります。特に、発音に関する相談はその傾向があります。

いつの時期かと言うと2月、3月で、ちょうど就園や就学を控えた時期と重なります。それまでは可愛いと思っていたわが子の話し方が、発表会などの機会にほかの子と比べて心配になり始めるのかもしれない。よくある相談は「かきくけこ」が「たちきゅてと」になるとか「さしすせそ」が「たちちゅてと」「しゃしいしゅしえしょ」になるというもので、ちょっと幼いかなと感じる発音ですが、親子とも心配そうな顔で来所されます。

ところで、私達はいつ発音の練習をしたのでしょうか？多くの方はいつの間にか、知らず知らずに上手におしゃべりができるようになったのではないのでしょうか？私達にはことばを聞き分ける力や正しく発音する力がはじめから備わっているわけではありません。多くの人に話しかけられたり、全身を使って遊んだり、しっかり食べたり飲んだりという、ごく日常的な毎日を過ごす中で聞く力や正しい発音で話す力をつけていきます。ですから、発音の練習と言っても特別なことをするわけではないのです。

正しい発音をするためには口を大きく開けるだけでは上手くいきません。しっかり息を出す、息を舌の真ん中から前に出す、口唇や舌の柔軟性と力強さ、息を吐く時と声を出す時のタイミングなど、様々な要素が絡み合うことが必要です。

具体的には、まずは人の話をしっかり聞く（音を聞き分ける）。そして、しっかり呼吸ができるようにシャボン玉やティッシュなどを吹いたりストローで紙片を吸い付けたりする、アッカンベーや百面相などで顔を動かす、舌打ちしたり舌で口唇や内頬をなめたりする、ガラガラうがいをする、などを遊びや日常生活に組み込んでいきます。体の使い方が口周りの動きにも影響するので、時にはトランポリンやケンケン、ボール遊びなども取り入れます。一見、発音とは関係の無さそうなことが実は大切なのです。

このように驚くほど日常的なことが発音の練習の中心です。相談に来られた保護者にもそのようにお伝えして言い直しさせることをやめていただき、日常生活の工夫をお願いしています。発音のことであれこれと気をもむよりも、気軽に相談に来ていただけることを願っています。（迫）

